



筑紫女学園大学リポジット

2. Guide to CALL(2) : Using LLC-2000MH and Studywave in class

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-02-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 荒巻, 龍也, ARAMAKI, Tatsuya メールアドレス: 所属:
URL	https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/713

CALL活用案内(2)

— 授業における LLC-2000MH と Studywave の活用 —

荒 卷 龍 也

Guide to CALL(2)

— Using LLC-2000MH and Studywave in class —

Tatsuya ARAMAKI

I 序

本学（筑紫女学園短期大学）の CALL 教室，オーサリング PC ならびに私自身の利用環境は，前回の紀要論文（筑紫女学園短期大学紀要：第36号）にも書いたもので，今回はその中で特に関連のあるもののみを示しておくこととする。

		個 人				オーサリングPC				教 室					
		ワープロ、エディタ	AV機器	課題ミニマネージャ	Front Page 2000	課題エクスプローラ	エディティングユニット	課題マネージャ	Front Page 2000	課題エクスプローラ	LLC-2000MH	ストレージ・ユニット	課題マネージャ	Front Page 2000	課題エクスプローラ
教材作成	テキスト素材作成	○	○												
	音声素材作成						○								
課題登録				○	○			○	○		○	○	○		
課題実行	一業習					○				○					○
	授自										○	○	○		○

注1) 音声教材はMOディスクを利用するので，エディティングユニットと LLC-2000MH には MO ドライブが必要である。

注2) エディティングユニットとは，「プログラム・エディティングセットPME-20」のことで，PME-20WS（ソフトウェア）を含んでいる。

注3) 「課題マネージャ」と「課題エクスプローラ」は Studywave モジュールに含まれている。また「課題ミニマネージャ」はフリーのソフトウェアで，「課題エクスプローラ」を含んでいる。

このような環境を利用しての、実際のテキストに即した教材作成と、その教材を実際に CALL 教室において活用する方法を示してみることにする。なお前回の論文では論じることのできなかった、音声教材作成の基礎についても初めに述べてみる。

Ⅱ 音声教材の作成

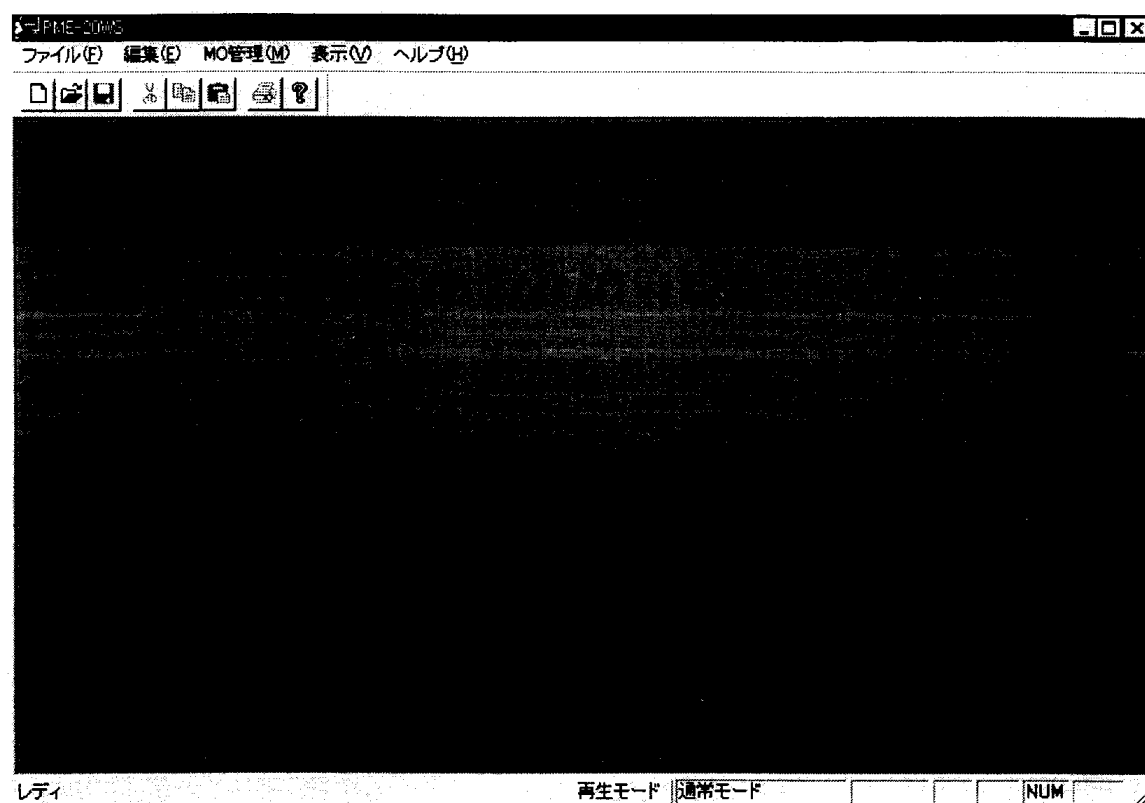
LL 本体である LLC-2000MH 本来の利用方法としては、従来のカセットテープではなく、デジタル式のメモリを利用することを旨としている。カセットテープの利用方法に関してはいまさら述べる必要もないであろうし、次節でも述べるようなこの機種本来の性能を十分に利用するためには、デジタル式のメモリを利用しなくてはならないこともあって、ここではメモリを利用する場合のことに関してのみ触れることにする。

LLC-2000MH用の音声教材を作成するには、オーサリング PC のエディティングユニット (PME-20) を用いることになる。詳しい作成方法はマニュアルを見ていただくとして、ここでは基本的な流れについて説明することにする。

1 準備

- ① 接続……AV教材再生用器機と PME-20, PME-20とコンピュータを接続する。音声素材のコンピュータへの取り込みは、この PME-20を経由して、アナログ音声として取り込みが行われる。さらにはMOドライブとコンピュータを接続し、音声教材の保存にはこのMOを使用する。
- ② 起動……AV教材再生用器機, PME-20そして MO ドライブの電源入力後に、コンピュータの電源を入れ起動させる。コンピュータ起動後に、PME-20用のソフトウェアである PME-20WS を起動させる。

(図1)

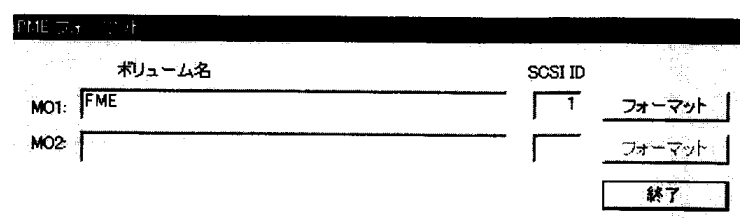


- ③ MOフォーマット……PME-20WSを起動させるとメインウィンドウ(図1)が表示される。この教材には独自のフォーマット形式を用いるので、まずMOディスクのフォーマットを行う必要がある。MOディスク挿入後に、「MO管理」メニューから「MOフォーマット」を選択すると、PMEフォーマット用のウィンドウが表示される。(図2) 適当なボリューム名をつけて「フォーマット」をクリックすると、MOのフォーマットが行われ、MOが使用可能となる。

④ 新規(音声教材ファイル)

作成……メインウィンドウの「新規作成」ツールボタンをクリックすると、新規作成ウィンドウ(図3)が表示されるので、ファイル

(図2)



番号を選択して、適当なファイル名を入力する。「新規」ボタンをクリックするとメインウィンドウに指定したファイルの内容が表示される。(図4)

(図 3)

新規作成

ボリューム名: FME

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17

取り出し

新規

キャンセル

ファイル名: FME UNIT 1

(図 4)

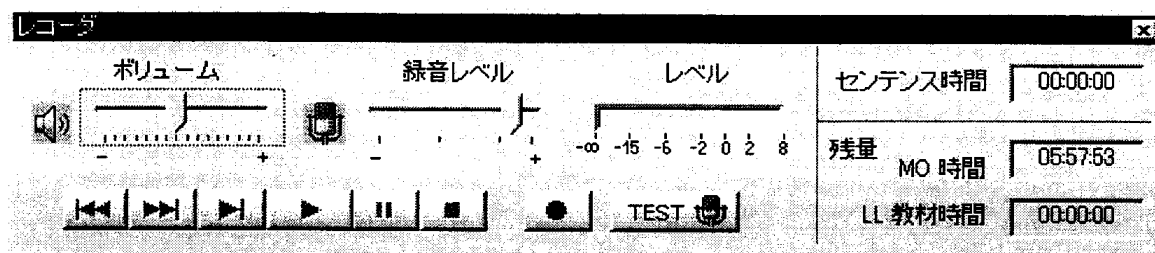
センテンス No. 1 経過時間 00:00:00

マーク	センテンス コメント	コメント					PME
		1	2	3	4	5	

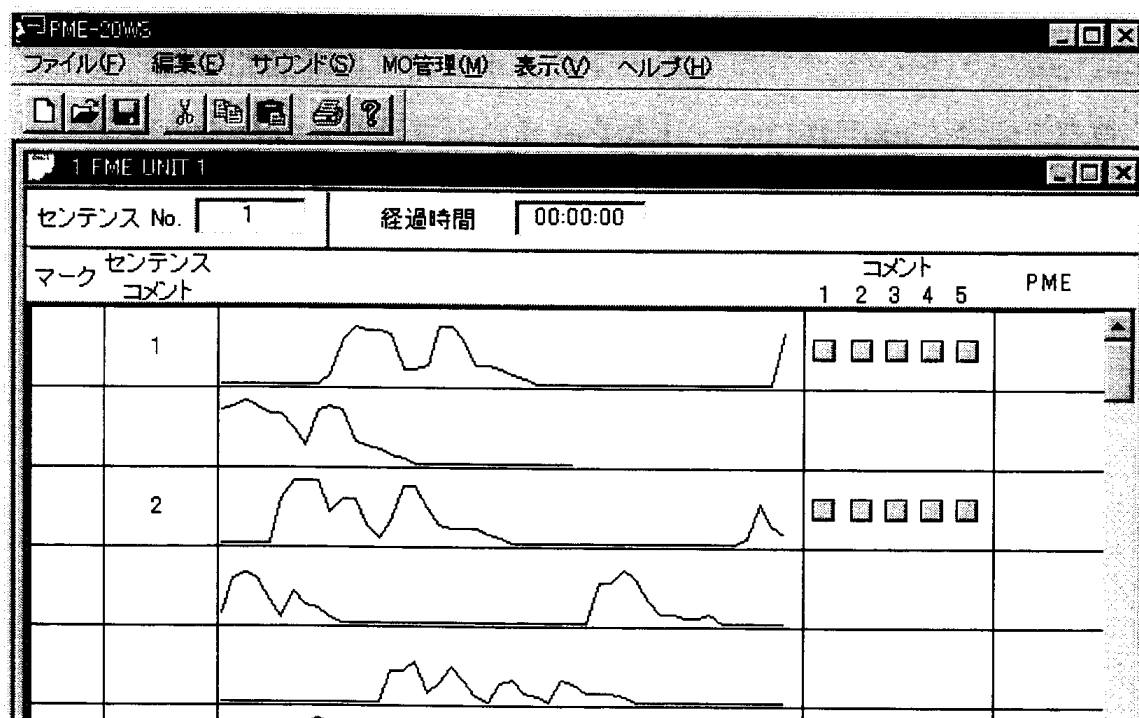
2 音声素材取り込み

ここまでの操作で、PME-20WSのメインウィンドウと「レコーダ」パレット（図5）が表示され、音声取り込みはこの「レコーダ」パレットを用いて行うことになる。音声を取り込むには、AV教材を再生し、「レコーダ」パレットの「TEST」をクリックして、試聴しながら「録音レベル」でボリューム調節を行う。音量に問題がなければ、取り込みたい部分からAV教材を再生すると同時に、「録音」ボタンをクリックすれば音声素材が取り込まれ、「停止」ボタンをクリックすると取り込まれたファイルの内容がウィンドウに表示される。（図6）このときに、設定されている空白時間によって、センテンスは自動的に切り分けられる。この空白時間設定は変更することもできる。

（図5）



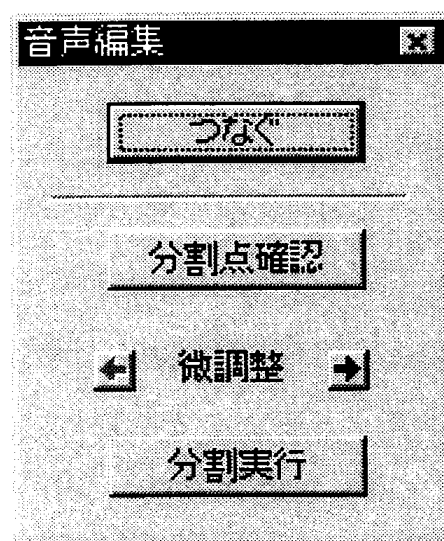
（図6）



3 音声教材編集

取り込まれた音声教材は、編集機能によって適当な長さのセンテンスに切り分けることができる。編集には「編集」パレット（図7）を用いるので、表示されていない場合は、「表示」メニューで表示する。編集作業は、メインウィンドウを参照しながら、「レコーダ」パレットを利用して音声を聴きながら行う。センテンスを分割するには、カーソルを分割したい点にあわせ、「編集」パレットで、分割点確認や微調整

（図7）



を行いながら、「分割実行」ボタンをクリックすることで行われる。一方センテンスを結合するには、結合したい複数のセンテンスを指定し、「つなぐ」ボタンをクリックすることで行われる。基本的にはこの操作の繰り返しによって、思い通りのセンテンス構成が可能となる。またメインウィンドウでは、指定範囲やセンテンス単位でのコピーや削除も行うことができ、複数のファイルを同時に開くことによって、異なったファイル間での同様の操作を行うこともできる。

さらにはセンテンスごとに、4つまでのコメントを付加することもできるので、速度を変えた音声教材や、日本語訳または英語訳、解説などをセンテンスごとに付加することもできる。またLLシステム教材用として「PME 編集」も用意されているので、さまざまなパターンのLL教材に編集することもできる。

4 MO 管理

最後に「MO管理」メニューについて触れておくことにしよう。このメニューによって既存のファイルを利用して、ファイル名の変更、ファイルのコピー、ファイルの削除などが行え、さらにはMOの内容を丸ごと別のMOにコピーすることもできる。

Ⅲ 音声教材の利用

ここでは、LLC-2000MH用に作成した音声教材を利用してどのようなことができるのかを、具体的な例もあげてみることにしよう。LLC-2000MHへの取り込みは、前節で作成した音声教材から行うこともできるし、AV教材そのものから行うこともできる。取り込みに要する時間は、教材の実際の時間よりは短い時間で完了する。(音声教材から行う時のみ) センテンスを分割したり、結合したりという簡単な編集程度であれば、CALL 教室内の LLC-2000MHでも行うことができる。また付属しているストレージ・ユニットに保存することによって、同じ教材を複数回の授業もしくは自習で利用しようという場合に、その都度取り込む手間を省くこともできる。ただストレージ・ユニットを利用するには、「自習」モードにする必要があるので、LLC-2000MH 本来の機能で利用できないものも出てくる。

LLC-2000MHへ取り込んだ音声教材は、学生卓の子機で操作することによって、デジタル教材ならではの、「頭出し」、「巻き戻し」、「早送り」などに時間を要しない、操作性の高い利用が可能となる。教師卓ではその様子をモニタしたり、インターカムを利用して個別指導をしたりすることもできる。またプログレスユニットによって学習状況をモニタ画面で確認することもできる。利用パターンには、「ペア学習」や「モデル学習」なども用意されている。

そこで具体的な利用手順について述べてみよう。

1 LLC-2000MHへの教材登録 (MOから)

- ① LLC-2000MHを「授業モード」で起動する。
- ② 音声教材の入っているMOディスクを、MOドライブに差し込む。
- ③ 「ディスク」ボタンを押すと、「ディスク」ボタンのランプとカウンターのディスクランプが点灯する。
- ④ 「ファイル番号」の+、-ボタンで登録したいファイルを選ぶ。
- ⑤ 「メモリ」ボタンを押すと、教材が LLC-2000MH に取り込まれる。

2 利用

- ① 教師が操作して一斉に聞かせる場合には、ルームスピーカを通して聞かせることになるので「一斉呼びかけ」ボタンを押し、LL コントロール・コンソールで操作する。
- ② 学生各自に操作させる場合には、ヘッドセットを装着させ、学生の手元にある、子機用コンソールで操作させる。

3 連動

Studywave と連動させて利用する（「LL 再生」）場合には、LLC-2000MH 本体のディスク番号が「00」に設定されているので、後で述べる課題作成時にディスク番号とファイル番号を「00」に設定しておく必要がある。

4 ストレージ・ユニット

ストレージ・ユニットに蓄積した音声教材を利用する場合には、LLC-2000MH を「自習モード」で起動させる必要がある。これは音声教材のストレージ・ユニットへの登録（蓄積）時も、Studywave と連動して利用する場合も同様である。Studywave の「LL 再生」での利用は後で述べるので、ここでは音声教材の登録と、LLC-2000MH 子機からのその利用方法について述べてみる。

1) ストレージ・ユニットへの登録（蓄積）

ストレージ・ユニットへ音声教材を登録する場合には、その前に教室の管理者と相談し、ディスク番号を決めたうえで登録を行う必要がある。なお MO から取り込む場合には、ディスク単位での取り込みとなるので、MO ディスク中の特定のファイルのみということとはできない。

- ① LLC-2000MH を「自習モード」で起動する。
- ② 音声教材の入っているMOディスクを、MOドライブに差し込む。
- ③ 「プログラム・ユニット」の「アナライザ」の5番と「教室テレビ（Room TV）」を同時に押す。
- ④ 「1 Disk Copy」を選択する。
- ⑤ MOの番号は「00」で固定されているので、「Disk No」にあらかじめ決めておいた番号を表示する。

⑥ 「Copy」を選択し、「教室テレビ (Room TV)」を2度押す。これでコピーが開始される。

⑦ コピーが終了したら、電源を落とす。これで登録は完了である。

2) 自習利用

ストレージ・ユニットに蓄積している音声教材を、LLC-2000MHの子機を使って利用する方法を示すことにする。

① LLC-2000MHを「自習モード」で起動する。

② 学生用ブースにある子機の電源でもある、「Attend」ボタンを押す。

③ 「COUNTER MODE」を押して、「FILE No.」にあわせる。

④ ディスク番号とファイル番号が表示され、ディスク番号が点滅しているので、「◀◀」と「▶▶」でディスク番号を選び「■」で決定する。次にファイル番号が点滅するので、同じく「◀◀」と「▶▶」でファイル番号を選び「■」で決定する。後は通常の利用と同じように利用できる。

⑤ ディスク番号もしくはファイル番号を変更する場合にも③～④の操作を繰り返せばよい。

Ⅳ 授業での活用例

1 課題作成

対象となった授業は2年生の「特別研究」であり、テキストは「メディア英語の基礎2000／2001年版」(弓書房)である。受講している学生数は20名で、全員がテキストも購入済みである。今回はAV教材として別売のカセットテープも利用した。

例として、Studywave用HTML教材の実際の作成手順を、今回利用したテキスト(UNIT 1)の設問の順番に説明してみよう。利用した課題は、「線結び」、「穴埋め入力」「キャプション課題」、「解答文入力フィールド」、「自動穴埋め」と「LL再生」である。なおテキストの問題にある「プロジェクト」と「World Map」は、今回は利用していない。

1) 素材作成

素材としては、「キャプション」と「自動穴埋め」で利用することになる本文のテキストとそれぞれの設問に付随する音声である。音声素材は PME-20WS での音声取り込みが、AV 機器を使用して直接取り込むことになるので、オリジナルのカセットテープはそのままでもよいし、頭出しがよりスムーズにできるように、MD へコピーしておいてもよい。

テキスト素材としては、ワープロソフトで文書を入力し、テキスト形式で保存した。以下に示すのは、今回「キャプション」課題に用いたテキストである。

Japan's Kyocera Corp. said Monday it had developed a mobile phone that could transmit images of the caller, which it said is the world's first such phone.

The company said its Visual-Phone VP-210 personal handyphone system (PHS) can transmit or receive two frames of images per second using a five-centimeter TFT (thin film transistor) liquid crystal display and a 110,000 pixel CMOS (complementary metal oxide semiconductor) image sensor.

2) 音声教材作成

音声教材については、コンピュータを使用しない時や自習にも対応できることを考慮して、LLC-2000MH 用のファイルを用いている。その他にも Studywave では Wave ファイルを利用することもできるが、LLC-2000MH には対応していない。LLC-2000MH と「LL 再生」に利用できる音声教材の作成方法は前節で述べたので、実際にどのように教材を作ったかについて触れてみよう。今回はテキストのユニット毎にファイルを作成した。

①プログラム・エディティングセット PME-20WS を起動し、「新規作成」を選択し、「ファイル名」にどの UNIT かがわかるように名前を付ける。→②音声入力元を設定し、1ユニットの長さだけ取り込む。→③この

ままでは PME-20WS が自動でセンテンスを区切っているのを、それを調整した。センテンスの長さはそれぞれの課題のところで述べることとする。

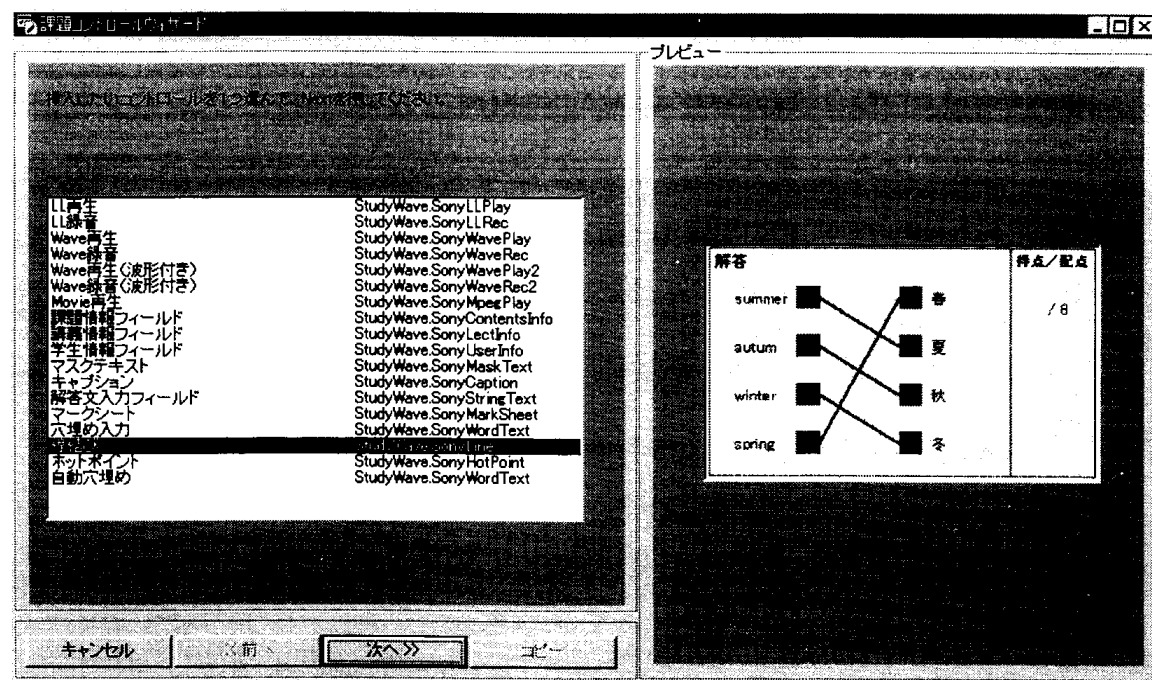
なお今回は LLC-2000MH 単独での利用も念頭においているので、設問番号も独立したセンテンスとして区切っているが、これらは Studywave 用教材では割り当てていない。そして重要なことは、音声教材に割り当てたファイル番号とセンテンス番号を記録しておくことである。これは「LL 再生」課題ではファイル番号とセンテンス番号を指定するためである。

3) 基本作業

これは前回の論文にも述べているので、簡単に流れだけ示すことにする。

①「課題ミニマネージャ」を起動し、「課題ミニマネージャ」のダイアログを表示する。→②「参照」ボタンをクリックし、HTML 教材保存用フォルダを指定もしくは作成する。→③「課題説明」ボックスに、HTML 教材に関するコメントを入力する。→④「HTML エディタ」ボタンをクリックすると、HTML エディタ (FrontPage)「起動ダイアログ」の中に、File01.htmが表示されるので、とりあえず「OK」をクリックする。(ファイル名は変更可能)→⑤HTML エディタが起動し、同時に「課題情報フィールド」、「講義情報フィールド」、「学生情報フィールド」が付加されたトップページが開かれる。このページを利用する場合にはそのままの状態、別のページを利用する場合には「HTML エディタ」の「新規作成」をクリックする。→⑥「課題ミニマネージャ」ダイアログの「ウィザード起動」ボタンをクリックすると、「課題コントロールウィザード」が起動する。作成(挿入)したい「課題コントロール」を選択し、「次へ」をクリックする。(図8)→⑦「課題コントロールウィザード」で課題を作成したら、「コピー」ボタンを押す、HTML エディタで作成中の教材の適当な場所に貼り付ける。

(図 8)

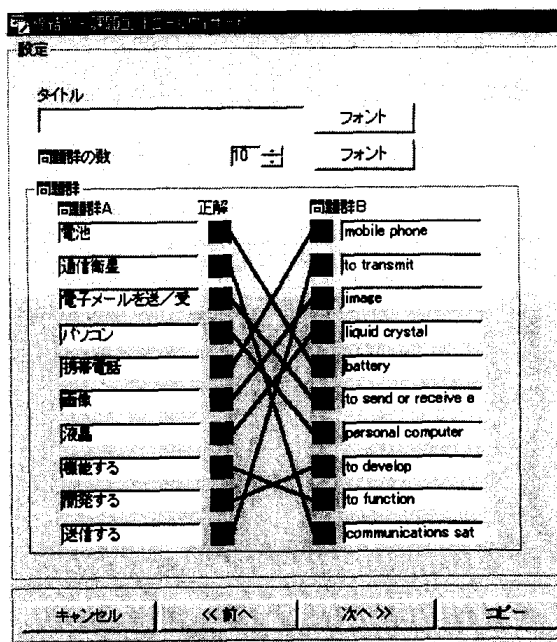


4) 線結び + LL 再生

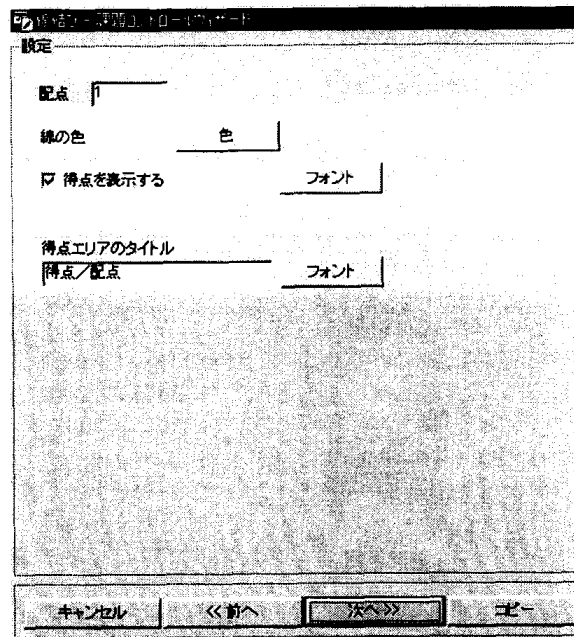
最初の設問は「左の日本語に相当する英語を右のリストより選び、発音を辞書で確認しなさい。」という問題である。この問題では、日本語と英語を結びつけるように「線結び」を作成し、それに「LL 再生」を付加することとした。なお「LL 再生」課題の作成は、前述の「音声教材作成」での作業を引き継ぐものであり、後の設問の場合も基本的には同様で、「センテンス番号」が異なる程度である。よって今後の「LL 再生」については、どの程度の長さの単位で貼り付けを行ったかということだけで、基本的な作成方法の説明は省略する。

- ① 問題文を記述し、改行をする。「課題ウィザード」を起動させ、リストの中から「線結び」を選択し、「次へ」をクリックする。(図 8)
- ② 「タイトル」を空白にし、「問題群の数」を設問数に合わせて「10」にする。「問題群 A」と「問題群 B」に設問の語を記入し、それぞれ正解のものどうしを結びつけ、「次へ」をクリックする。(図 9)
- ③ 「配点」、「得点を表示する」、「得点エリアのタイトル」は変更せずに、「次へ」をクリックする。(図 10)

(図9：プレビュー省略)



(図10：プレビュー省略)

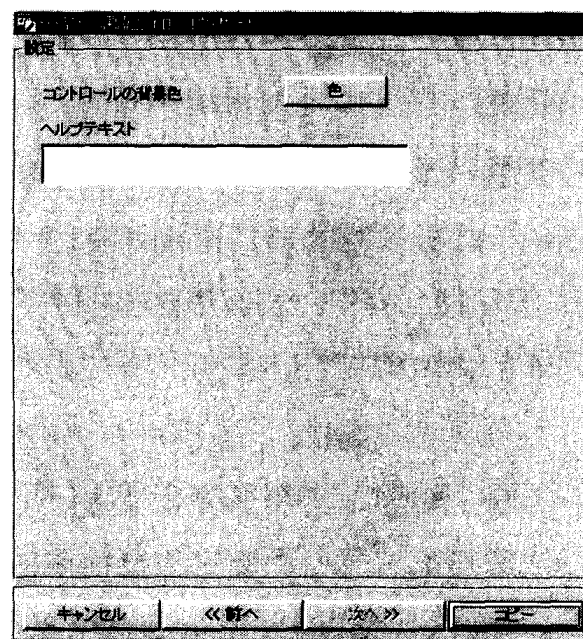


*「配点」ではこの問題の配点を何点にするかで変更することができ、評価する時の「進捗・評価」の評価点と関係してくる。「得点を表示する」は課題実行中に、「正解」ボタンを押すことで、現在何点かを表示させる場合にチェックをしておく。なおこのためには、課題のタイプを「補助」にしておく必要がある。

④ 「コントロールの背景色」を必要に応じて指定し、「コピー」を押し (図11), HTML エディタに戻り, 問題文の下に「ペースト (貼り付け)」する。前半と後半のそれぞれ10問分を作成した。

⑤ 「課題ウィザード」を終了しても, 次の課題作成のために「戻る」ボタンを押して最初の画面まで戻ってもよい。終了し

(図11：プレビュー省略)



た場合には、次の課題作成を行うためには、「課題ウィザード」を再び起動する。

- ⑥ 「課題ウィザード」の初期画面（図8）のリストから、「LL再生」を選択し、「次へ」をクリックする。

（図12：プレビュー省略）

（図13：プレビュー省略）

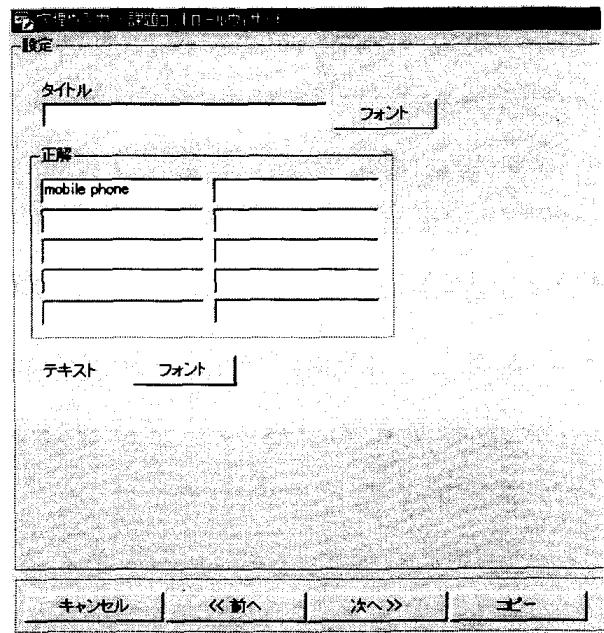
- ⑦ ストレージ・ユニットのあらかじめ決めておいた「ディスク番号」とPME-20WSで音声教材を作成しておいた時の「ファイル番号」と「センテンス番号」を指定し、「次へ」をクリックする。（図12）
- ⑧ 「コピー」を押し、HTML エディタに戻る。（図13）
- ⑨ この設問では、音声教材のセンテンスを前半の10問分と後半の10問分に分けたので、それぞれに「LL 再生」課題を作成し「線結び」課題の上に「ペースト（貼り付け）」する。

5) 穴埋め+ LL 再生

次の設問は、「左ページ（設問1）の単語の中から最も適当なものを選び、必要なら語形変化をさせて文章を完成させなさい。」という問題で、6問ある。この問題では空所補充問題として、「穴埋め入力」を作成し、先ほどと同様に「LL 再生」を付加することとした。

- ① それぞれの問題の、空所以外の文章を記述し、空所の部分にカーソルをあわせて、「課題ウィザード」を起動させ、起動画面（図8）のリストの中から「穴埋め入力」を選択し、「次へ」をクリックする。

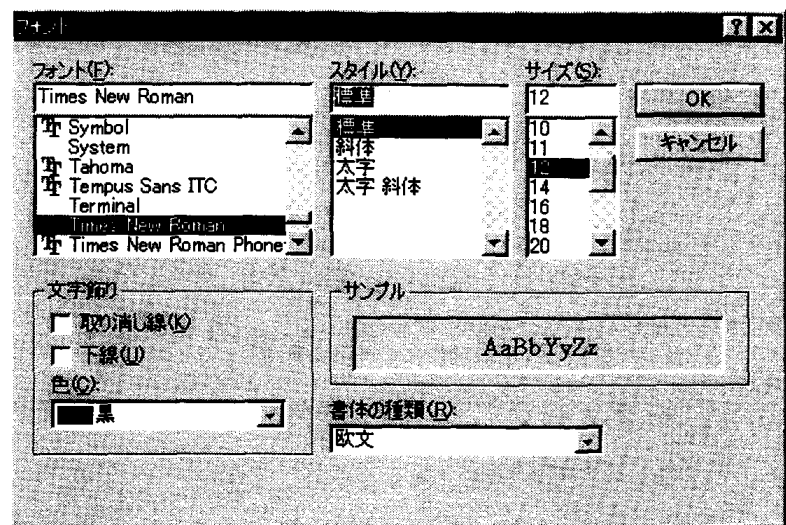
（図14：プレビュー省略）



- ② 「タイトル」を空白にし、「正解」に答えを記入する。
（図14）課題実行時に、自動的に英語入力を指定するために、テキストの

（図15）

「フォント」をクリックし、英語フォントを選択し、「書体の種類」を「欧文」にし、「OK」をクリックする。
（図15）



- ③ 「次へ」をクリックすると、次の画面へと進むので、「線結び」の時と同様に、「配点」, 「得点を表示する」, 「得点エリアのタイトル」は変更せずに、「次へ」をクリックする。
（図11）
- ④ 「コントロールの背景色」を必要に応じて指定し、「コピー」を押し（図12）、HTML エディタに戻り、空所の個所に「ペースト（貼り付け）」する。設問が6問あるので、この作業を6回繰り返す。

- ⑤ 「LL 再生」は、音声教材のセンテンスを6問分6つに分けて、文章単位で作成しておき、それぞれの「LL再生」課題を作成し「穴埋め入力」の文章の前に「ペースト（貼り付け）」する。

6) キャプション+解答文入力フィールド+LL 再生

3番目の設問は、「次の記事の中で5W1Hに該当する内容を抜き出し、それぞれを意識しなさい。また、見出しも和訳しなさい。」という問題である。この問題では、本文を読むのに「キャプション」、答えの入力に「解答文入力フィールド」を用いている。またこの問題でも「LL 再生」を付加することとした。

- ① この課題はページを変えるので、HTML エディタの「新規作成」で新しいページを作成し、作業中のフォルダに保存し、名称を File02 としておく。

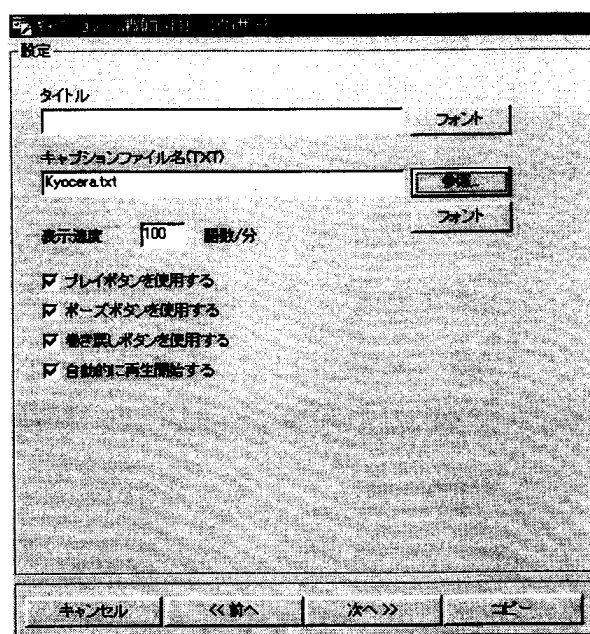
- ② Headline を記述した後に改行し、「課題ウィザード」を起動させ、起動画面（図8）のリストの中から「キャプション」を選択し、「次へ」をクリックする。

- ③ 「タイトル」を空白にし、キャプションファイル名の「参照」をクリックし、あらかじめ作成しておいたテキスト素材を選択する。

（テキストファイルは作業中のフォルダに保存しておくとい「表示速度」ボックスに、1分間に表示したい語数を入力し、その他は必要に応じてチェックをし、「次へ」をクリックする。（図16）

- ④ 「コントロールの背景色」を必要に応じて指定し、「コピー」を押し（図12）、HTML

（図16：プレビュー省略）



エディタに戻り、Headlineの下に「ペースト（貼り付け）」する。

- ⑤ テキストにある設問, 「Who did What? / What happened?」, 「How? / Why?」, 「Where? / When?」, 「Headline」を記述し、それぞれ改行しておく。
- ⑥ 問題文の次の行にカーソルを合わせ、「課題ウィザード」を起動させ、起動画面（図8）のリストの中から「解答文入力フィールド」を選択し、「次へ」をクリックする。
- ⑦ ここでは日本語で入力させたいので、テキストの「フォント」をクリック

して「フォント」ダイアログボックス（図15）を表示し、日本語フォントを選択し、「書体の種類」を「日本語」にし、「OK」をクリックする。「タイトル」を空白にし、「次へ」をクリックする。（図17）

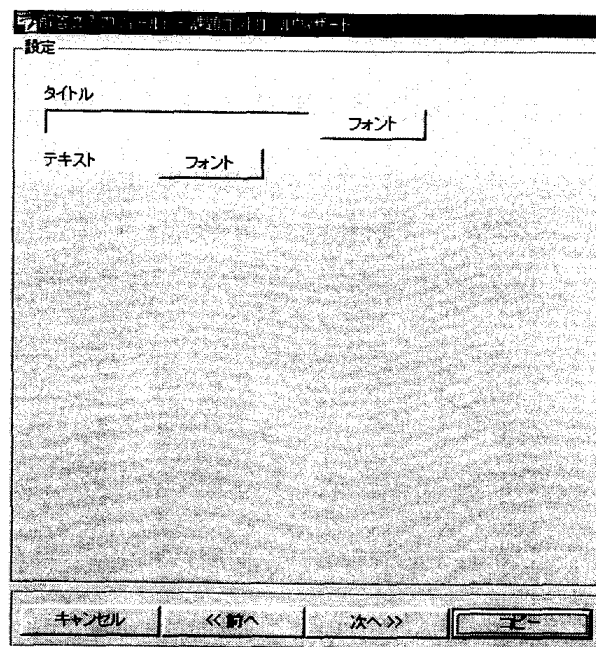
- ⑧ 「コントロールの背景色」を必要に応じて指定し、「コピー」を押し（図12）、HTMLエディタに戻り、問題文の下に「ペースト（貼り付け）」する。この作業を設問の分だけ繰り返す。

- ⑨ 「LL再生」は、音声教材のセンテンスを文章全体単位で1つ作成しておき、その課題を作成し「キャプション」課題の上に「ペースト（貼り付け）」する。

7) 自動穴埋め+LL再生

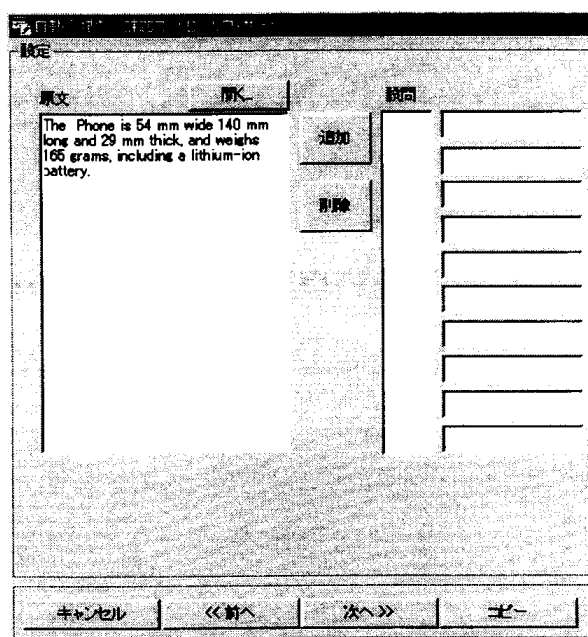
最後の問題は、「以下は前ページ（設問3）の記事のつづきです。日本語を参考に相当する英語を空所に補充しなさい。」という問題である。この問題では「自動穴埋め」課題を利用し、「LL再生」を付加している。

（図17：プレビュー省略）

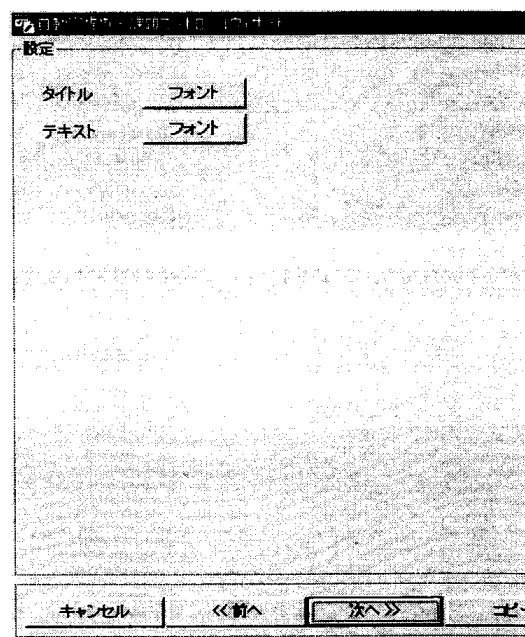


- ① この課題でもページを変えるので、HTML エディタの「新規作成」で新しいページを作成し、作業中の同じフォルダ内に保存し、名称を File03 としておく。
- ② まず日本語の文章を記述した後に改行し、「課題ウィザード」を起動させ、起動画面（図8）のリストの中から「自動穴埋め」を選択し、「次へ」をクリックする。
- ③ 「開く」をクリックし、あらかじめ作成しておいた、解答も含んだテキストファイルを指定する。
- ④ 「原文」ボックスの中の問題となる語を指定し、「追加」をクリック、もしくは指定した語をダブルクリックする。この作業を問題の数だけ繰り返す。なお複数回答がある場合には、解答候補として追加する。（図18）

（図18：プレビュー省略）



（図19：プレビュー省略）



- ⑤ 「次へ」をクリックすると、次の画面へと進むので、必要があれば、「タイトル」と「テキスト」の「フォント」を指定し、「次へ」をクリックする。（図19）
- ⑥ 「線結び」の時と同様に、「配点」、「得点を表示する」、「得点エリアの

タイトル」は変更せずに、「次へ」をクリックする。(図11)

⑦「コントロールの背景色」を必要に応じて指定し、「コピー」を押し(図12)、HTML エディタに戻り、日本語説明文の下に「ペースト (貼り付け)」する。前半と後半をそれぞれ作成した。

⑧「LL 再生」は、音声教材のセンテンスを前半用と後半用に2つに分けて作成しておき、それぞれの課題を作成し「自動穴埋め」課題の上に「ペースト (貼り付け)」する。

8) 最終処理 (調整)

HTML エディタに戻り、サイズなどの調整を行い、必要に応じて挿入された課題を、「ActiveX コントロールのプロパティ」ダイアログを開いて編集する。

2 配布・実行

1) 課題登録

Studywave 用の HTML 教材を利用するには、まず課題を登録しておく必要がある。前回もこのことに関しては書いているので、簡単な流れだけをもう一度示すことにする。

①オーサリングPCもしくは教師卓PCの「課題マネージャ」を起動する。→②「登録」をクリックすると、登録ダイアログが表示されるので、「講義名」を選択し、「課題名」を入力し、「OK」をクリックする。→③「課題登録画面」が表示される。「課題のタイプ」(補助もしくはテスト)を選択し、「開始日」ならびに「提出期限」を設定し、必要に応じ「制限時間(分単位)」を入力する。→④「追加」をクリックし、あらかじめ作成しておいた教材を、フォルダごとすべて指定する。→⑤「登録」をクリックし、メイン画面に戻る。→⑥必要があれば、ここで「登録課題の変更」(課題登録画面の表示)や「削除」を行う。→⑦「学習者のアサイン」をクリックし、登録教材を実行する学習者のアサインを行う。→⑧「学習者のアサイン画面」の「講義」タブで授業科目を選択し、「全て追加」をクリックする。「教師」タブで教師の名前を選択し、「追加」をクリックし、「OK」

をクリックする。学習者のアサイン後に教材を変更する場合には、一旦アサインを解除する必要がある。→⑨終了をクリックして、課題の登録は完了である。

2) 課題配布

HTML 教材を配布するには、教師卓 PC の「教師コントロール」から「配布」タブを開いて行う。配布の方法は、登録している課題の一覧を配布し、学生自身に複数の課題から選択させる「課題リスト配布」と、教師のほうで教材を指定して配布する「課題選択」の主に2つがある。さらに「課題選択」には、教師の側で終了や回収を実行する「連動」と、それらを学生に任せる「非連動」の2通りの方法がある。これらに関しては前回も書いているので、ここでは省略することとする。なお「LL再生」を LLC-2000MH のストレージ・ユニットと連動して行いたい場合には、「教師コントロール」起動時に、「LL連動」をチェックしておくことと、LLC-2000MH を「自習モード」で起動させておく必要がある。

3) 自習利用

自習利用の場合の利用は、「課題リスト配布」と基本的に同じである。ただ配布してくれる人がいないので、自分で「学習者用シェル」の最上部左側の「Studywave」アイコンをクリックして「課題エクスプローラ」を起動させ、登録されている課題の一覧から選択して実行する必要がある。

3 評価

評価に関しても前回書いているので、まず簡単な流れだけをもう一度示すことにする。「課題マネージャ」を起動し、メイン画面を表示させ、評価をしたい課題を選択し、「進捗・評価」をクリックすると、進捗・評価画面が表示されるので、評価をする学生を選択する。なお評価ができるのは、課題を提出して、「ステータス」が「提出済」になっている学生のみである。(図20)

1) 評価点

HTML 課題作成時に、今回の「線結び」、「穴埋め入力」、「自動穴埋め」などのように、「配点」を記入しておいたものに関しては、それら全ての

合計点が、「評価点1」の欄に自動的に表示される。

2) 解答文

今回も作成した「解答文入力フィールド」の解答は、「解答文」ボックスに表示されているので、「エディタで開く」をクリックすることで全文を表示することができる。また解答文をファイルとして保存したい場合には、「解答文を一括保存」をクリックすることで、テキストファイルとして指定されたフォルダに保存される。

3) 教材ファイル

「LL再生」などの再生用の課題を除く全てのHTML教材の課題を、「教材ファイル」ボックスのファイルを指定して、「各種ファイルを開く」をクリックすることで、学習者が提出したままの形で見ることができる。また教材ファイルをHTMLのままで別途保存しておきたい場合には、「教材ファイルを一括保存」をクリックすることで、HTMLファイルとして指定されたフォルダに保存される。

4) フィードバック, その他

「コメント」を記入し、必要に応じて教材ファイルを訂正し、「保存・返却」ボタンをクリックすることで、学生へ返却することもできる。その他にも課題を最初の状態（配布された時の状態）に戻す「クリア」ボタンや、誤って提出してしまった学生の「ステータス」を「提出済」から「着手済」に戻す「未提出化」などが用意されている。

(図20)

課題マネージャ 進捗・評価画面

荒巻 龍也 特別研究 je2 荒 FME 1 02/02/28

氏名	ユーザ ID	ステータス	提出日	返却日	評価点1	評価点2	自習時間(分)
岡島 千春	je001127	提出済	01/09/25		32	0	03
吉村 奈美	je002346	着手済					33
御原 真衣	je002201	着手済					35
金本 桃子	je002130	提出済	01/07/27		35	0	50
穴井 久美子	je002105	着手済					20

岡島 千春 京セラが画像を送信できる携帯電話を開発した。

File01.htm
File02.htm
File03.htm
Kyocera.txt

エディタを開く 音声を開く 各種ファイルを開く

保存・返却 クリア 未提出化

解答文の一括保存 教材ファイル一括保存 CSVファイル出力 最新の情報 戻る

V 著作権について

今回用いたテキストを利用するにあたり、著作権などのこともあり、出版社に問い合わせしてみた。出版社では今回のようなケースについての統一見解（取り決め）を出すには至っていないということであったが、出版社としては、以下の条件で HTML 教材に使用してもよいということであった。

- ① 利用する学生は受講者に限定する。
- ② 受講する学生がテキストも別途購入している。
- ③ AV教材（カセットテープ）の利用も受講者に限定する。

特に今回のように出版されているテキストをそのまま利用するようなときには、著作権等についての十分な注意が必要であろう。

VI 結び

Studywave は比較的よくできた、使い勝手もよいシステムであるが、前回も挙げたようないくつかの問題点がいまだに残っている。それを以下に示して

おくので、一日も早く解決してほしいものである。

- ① 学内 LAN などの全体的なネットワークとの相性があまりよくない，閉ざされた環境でのものであること。
- ② コンピュータを使用して音声教材を作成するにもかかわらず，音声素材として他のコンピュータ用音声ファイルが利用できないこと。
- ③ 「課題コントロール」のカスタマイズが思うようにできないこと。
- ④ 既製品としての音声教材ならびに HTML 教材がほとんどないこと。